



# あ さ い ち

あいさつ

さわやか

いつでも

ちいきと



旭一中だより

建学の精神  
生徒の信条  
教育目標

みんな仲よく 面倒よく  
正しくあれ 強くあれ 望み高くあれ  
持ち味を生かし 協働しながら  
自らを成長させる生徒の育成

令和3年度  
第15号  
令和3年11月15日  
旭市立第一中学校

## 素直に生きる

先日、校舎に小鳥が舞い込んできました。何とか外に出そうと思い、先回りして窓を開けて行くのですが、逃げ回ってはガラスに衝突します。何度か衝突した後、ポトリと床に落ちました。

首の骨が折れてしまったのかと心配しましたが、そっとすくい上げて外に置いたところ、しばらくして飛んでいきました。

ふと私たちは、この小鳥と同じことをしてはいまいか、と感じました。

小鳥なので仕方がないですが、もし「出口はどこですか?」と聞くことができれば、やみくもに飛び回って、ガラスに何度も衝突しなくてもすんだでしょう。頑張ってもうまくいかないときは、一度立ち止まって考えることも大切です。

私たちが物事を考えたり、行動したりする「ものさし」は、たいてい自分の経験や体験です。だからこそ失敗も含めて、いろいろな経験をするのが大切なのです。

とは言え、立ち上がれなくなるような失敗は上手に避けて「ものさし」を少しずつ大きくする計画と営みが教育なのでしょう。それは学校教育も家庭教育も同じです。

生徒のみなさんには様々な経験を積んできたことで「出口」を知っている、または見当がついている大人の言うことを素直に受けとめ、自分を成長させてもらいたいと感じています。



中学生がする失敗の多くは、これまで誰かがしてきた失敗ですから、たいていの処方箋は見つかります。

そして、どんな分野でも、一流と言われる人は、素直な人が多いものです。

一方、大人は小さな失敗を上手に経験させながらも、出口を指し示す力を高めていきたいものです。

これは自戒でもあります。